

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果と分析について

1 目的

- (1) 2026年4月23日(木)に実施した「令和8年度 全国学力・学習状況調査」における町田市の調査結果を分析し、教育施策の成果と課題を検証して改善を図る。
- (2) 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善を図る。
- (3) 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 主な内容

- (1) 令和8年度 全国学力・学習状況調査
 - ① 調査結果(教科別平均正答率、結果の分析と授業改善のポイント)
 - ② 質問紙調査結果(児童生徒質問紙及び学校質問紙の結果の分析と今後の取組について)
 - ③ 質問紙調査と教科別平均正答率とのクロス集計結果
- (2) 調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

3 活用方法

- (1) 各学校において、本資料を参考に調査結果を分析し、授業改革推進プランを作成するとともに、全教員が実施する町田市スタンダード授業改革シートを活用した授業分析を行い、日々の授業改善を図る。
- (2) 教育委員会において、本調査結果と、市独自のMNE実施状況調査等を関連付けて分析し、今後の研修内容や授業改革推進施策の取組の改善及び充実を図る。
- (3) 学習習慣の確立及び家庭学習の推進を図るために、保護者・地域に周知する。
- (4) 組織的な授業改善のPDCAサイクル化を図るために、定例校長会や定例副校長会、教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修やICT活用研修等で周知する。
- (5) 町田市ホームページ「まちだ子育てサイト」において、結果と分析について公開し、町田市教育委員会の取組の周知を図る。

4 配布及び公開

- (1) 各学校で分析した結果を、学校だより等で保護者に周知する。
- (2) 町田市教育委員会で分析した結果を、町田市立小・中学校の管理職及び教員に配布する。
- (3) 町田市教育委員会で分析した結果を、町田市ホームページ「まちだ子育てサイト」において公開する。

「令和8年度全国学力・学習状況調査」の結果と分析について

令和8年度 全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対 象 小学校第6学年、中学校第3学年

3 実施日 2026年4月23日（木）※中学校英語については、
「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の実施日：2026年4月20日（月）～23日（木）のうち1日
「話すこと」の実施日：2026年4月24日（金）～5月29日（金）の期間内で分散実施

4 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数・数学・英語）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

（1）教科別平均正答率（全国より上回っているもの、下回っているもの）

【小学校】

		国語	算数
平均 正答率	町田市	61.0	58.0
	全 国	60.9	56.4
	東京都	65.0	63.0
割合 ※	町田市	100.1	102
	東京都	106	111

○国語は、全国より0.1ポイント上回り、東京都より4.0ポイント下回っている。
○算数は、全国より1.6ポイント上回り、東京都より5.0ポイント下回っている。

※ 全国を100とした時の割合

経年変化		国語			算数		
		R6	R7	R8	R6	R7	R8
割合 ※	町田市	97	97	100.1	96	100	102
	東京都	103	103	106	105	110	111

【中学校】

		国語	数学	※英語
平均 正答率 ※英語についてはIRTスコアを記載	町田市	66.0	60.0	522
	全 国	63.9	57.0	499
	東京都	68.0	62.0	530
割合 ※	町田市	103	105	104
	東京都	106	108	106

○国語は、全国より2.1ポイント上回り、東京都より2.0ポイント下回っている。
○数学は、全国より3.0ポイント上回っているが、東京都より2.0ポイント下回っている。
○英語のIRTスコアは全国より23ポイント上回り、東京よりも8.0ポイント下回っている。

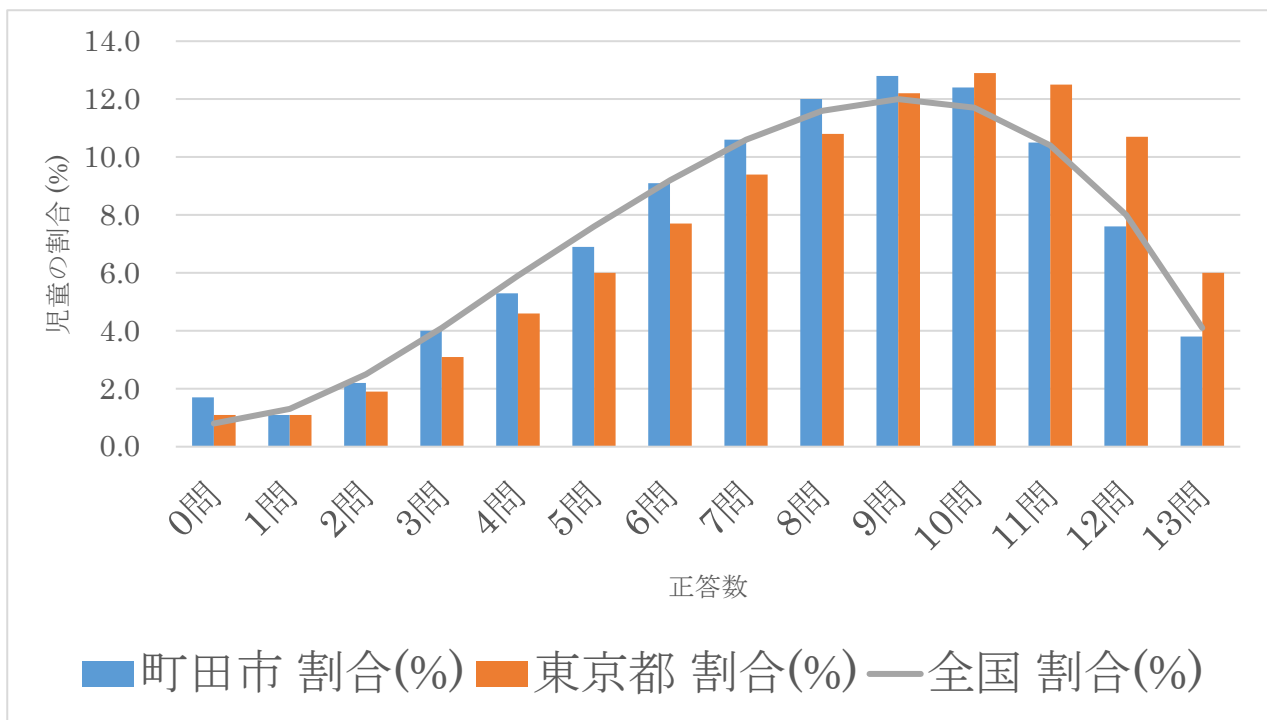
経年変化		国語			数学			英語
		R6	R7	R8	R6	R7	R8	R8
割合 ※	町田市	103	103	103	104	103	105	104
	東京都	104	105	106	108	109	108	106

小学校・中学校ともに2024年（令和6年）から2026年（令和8）にかけて平均正答率が上昇している。

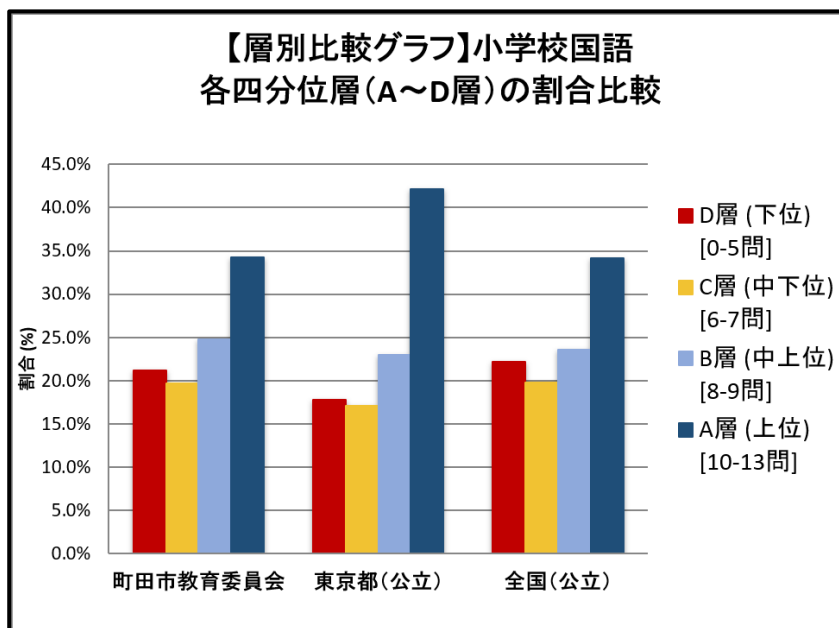
(2) 小学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		13	61.0	60.9	65.0
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	4	67.9	66.8	70.4
	情報の扱い方に関する事項	2	51.6	52.3	56.7
	我が国の言語文化に関する事項				
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	66.5	65.8	70.0
	書くこと	2	46.2	45.7	50.4
	読むこと	2	63.0	65.9	68.8

【問題ごとの平均正答率】

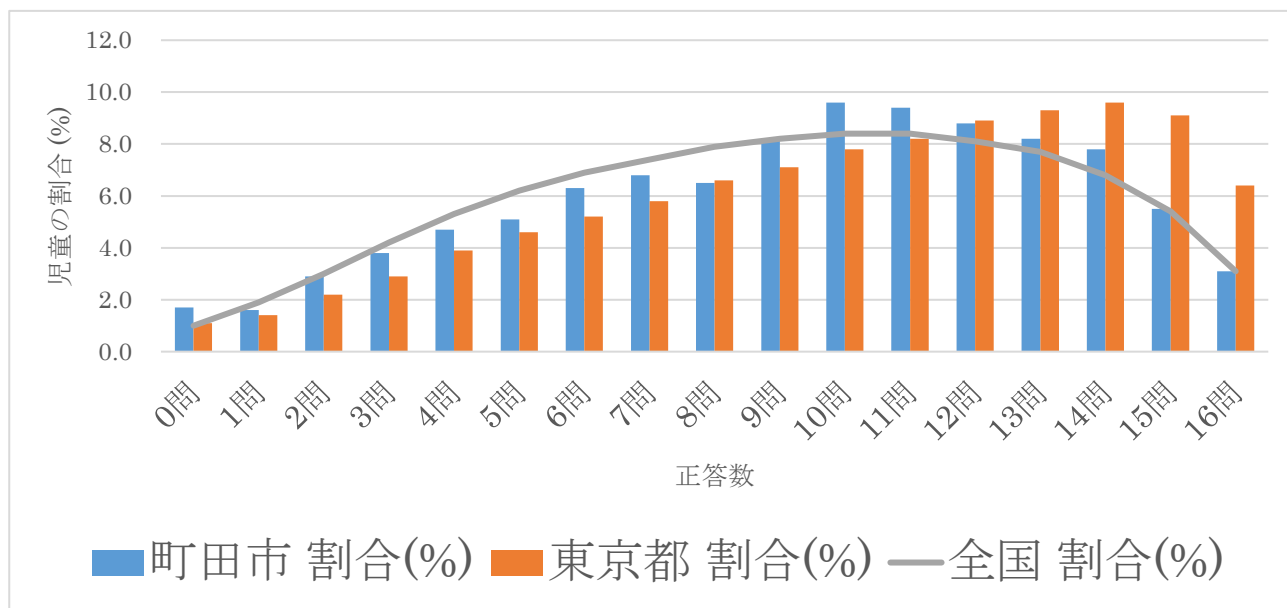
問題 番号	出題の趣旨	平均正答率（％）		
		町田市	全国	東京都
1ー	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる。	73.4	73.9	77.6
1二（１）	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。	61.4	60.2	64.9
1二（２）	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。	64.7	63.2	67.5
1三（３）	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる。	65.9	65.2	68.1
2ー	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。	61.2	57.9	63.7
2二	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる。	47.0	48.9	51.3
2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	79.4	80.0	80.8
2三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる。	49.7	45.2	52.3
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	31.1	33.5	37.2
3ー	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる。	76.7	76.7	80.5
3二	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる。	56.2	55.6	62.0
3三（１）	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	56.0	55.5	62.2
3三（２）	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。	70.0	76.4	75.4

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

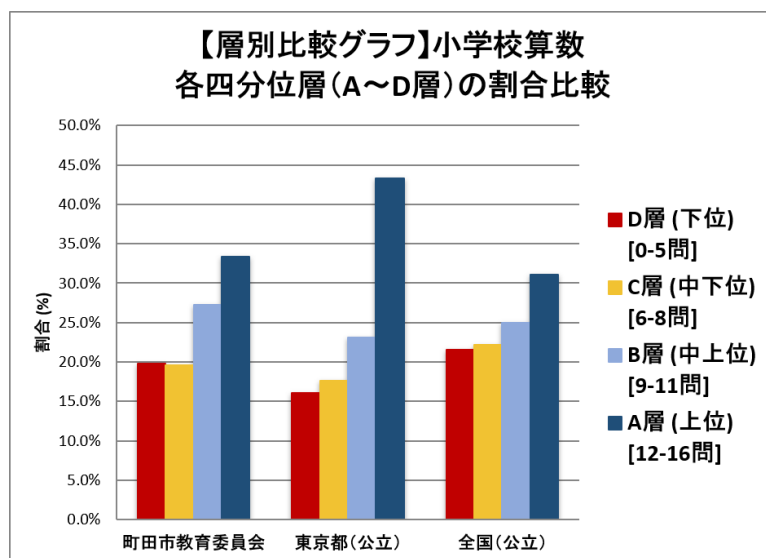
- 四分位の正答数内訳では、D層（下位層：0～5問正答）の割合が21.2％（全国22.2％）A層（上位層：10～13問正答）の割合が34.3％と全国と同等である。
- 学習指導要領の内容別では、「読むことに関する事項」の平均正答率が63.0％であり、全国平均（65.9％）と比較して2.9ポイント低い。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる記述式の問題（問題3三（2））においては、本市の正答率が70.0％となり全国平均（76.7％）と比較して6.7ポイント低い。また、無回答率が21.2％と高くなっている。
- 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる問題（問題2二）では、本市の正答率が47.0％となり、全国平均（48.9％）を1.9ポイント下回っている。
- 「読み手に納得してもらうために、自分の考えの根拠となる客観的なデータや事例を示したい。」等、引用する目的を書き手である児童と教師が共有することが重要である。
- 児童の学習過程を計画する際には、一人一人に合った学習過程になるよう柔軟に設定し、文章を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既有的知識や経験などに結び付くものを考えたりしながら自分の考えをまとめるようにする。
- 「書くこと」の学習などにおいて、教師や友達と交流したり、児童自身が読み手の立場に立って振り返ったりする機会を設定することもある。その際、自分の伝えたい考えは何かを確かめた上で、自分の考えを支える理由や事例を複数挙げ、最も適したものを選択できるようにすることが大切である。

②算数

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	58.0	56.4	63.0
知識・技能	12	61.9	60.1	67.1
思考・判断・表現	4	45.8	45.4	51.1
A 数と計算	8	63.0	61.1	68.0
B 図形	4	57.0	55.3	63.4
C 測定	1	79.0	78.1	82.9
C 変化と関係	3	45.4	41.1	49.9
D データの活用	4	47.5	48.6	53.9
選択式	5	58.7	56.0	62.6
短答式	8	61.1	59.7	66.7
記述式	4	47.9	48.5	54.3

【問題ごとの平均正答率】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率（％）		
		町田市	全国	東京都
1（１）	一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く	68.0	72.7	76.9
1（２）	直方体の箱の形の六つの面のうち、四つの面が示されたとき、残りの二つの面の縦と横の長さを書く	64.8	63.0	70.8
1（３）	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く	48.7	40.1	52.3
1（４）	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	46.3	45.2	53.5
2（１）	74291の百の位の数を書き、千の位までの概数で表したものを選ぶ	67.8	66.5	71.8
2（２）	イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20%に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く	57.5	53.1	62.0
2（３）	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ	39.5	36.1	41.6
2（４）	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	39.1	34.2	46.0
3（１）	1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く	95.0	94.5	95.5
3（２）	二つの小数のどちらが5に近いかを判断するために、6.37-5と5-3.76を計算する	58.8	58.1	67.0
3（３）	7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く	45.1	44.0	51.4
3（４）	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	72.9	68.1	76.1
4（１）	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く	52.4	56.2	57.9
4（２）	昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く	79.0	78.1	82.9
4（３）	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く	16.9	17.9	26.5
4（４）	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ	74.4	74.9	77.5

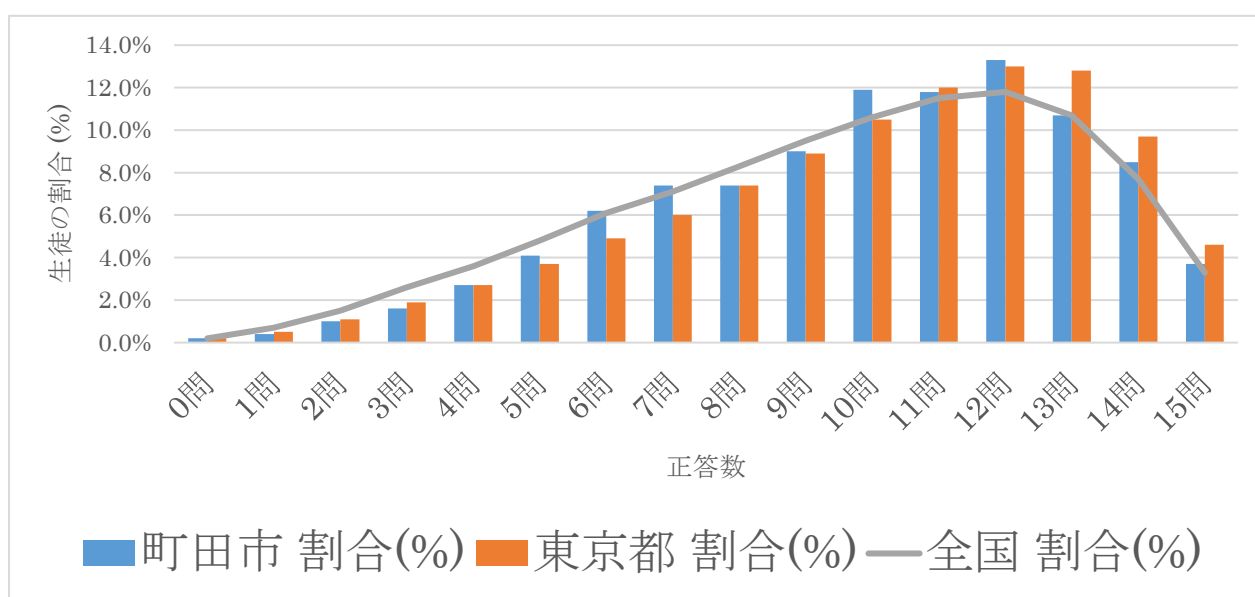
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、A層（33.4%）とB層（27.2%）の割合が全国より高く、D層（19.8%）が全国（21.6%）を下回っている。
- 全体の平均正答率は全国より1.6ポイント高いが、東京都より5ポイント低い。
- 学習指導要領の領域別では、全領域において全国平均を上回っているが、「変化と関係」「データの活用」で正答率が低くなっている。
- 評価の観点別では「知識・技能」、「思考・判断・表現」は全国と同程度である。
- 問題形式別では「記述式」の正答率が全国より低くなっている。
（町田市：47.9%、全国：48.5%、東京都：54.3%）
- 日常生活の問題を解決するために、日常生活の問題について、身の回りのものを図形として捉え、図形を構成する要素に着目して考察できるようにすることが望ましい。
- 単に公式をあてはめて計算するだけでなく、「単位の大さきのいくつ分か」という本質的な概念形成を徹底することが重要である。
- 日常生活の様々な問題場面において事象を数理的に捉え、数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにする指導を充実させる。
- データを収集、分類整理し、結果を表現する際、表については、分類の仕方に様々な種類があるため、それぞれの特色について理解したり、目的に応じて用いたりすることができるようになることが大切である。

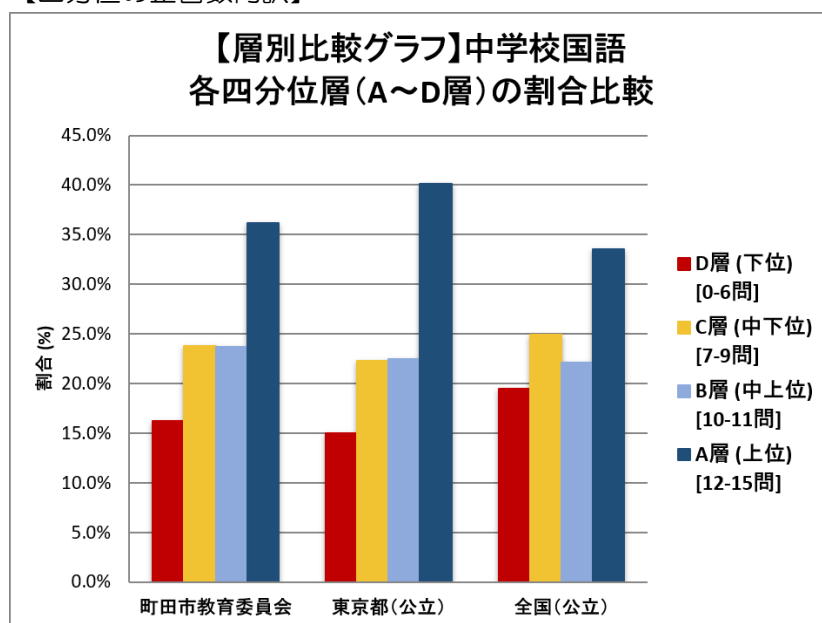
(3) 中学校

①国語

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率（％）		
			町田市	全国	東京都
		15	66.0	63.9	68.0
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	64.3	63.0	66.2
	情報の扱い方に関する事項	1	73.1	70.4	74.6
	我が国の言語文化に関する事項				
思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	66.2	63.9	68.1
	書くこと	3	69.6	67.4	70.5
	読むこと	3	62.6	59.7	64.2
問題形式	選択式	9	75.3	72.7	76.5
	短答式	3	56.4	55.8	58.5
	記述式	3	47.8	45.5	50.0

【問題ごとの平均正答率】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率（％）		
		町田市	全国	東京都
1 一	「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する	87.0	84.3	87.3
1 二	「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する	71.8	70.2	73.4
1 三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	87.6	85.4	87.9
2 一	発言について説明したものとして適切なものを選択する	70.7	68.5	73.4
2 二	話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	72.3	70.4	74.4
2 三	話し合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	73.1	70.4	74.6
2 四	話し合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	55.5	52.7	56.6
3 一	文書作成ソフトに表示された意味と用例を参考にして、漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択する（とる）	37.6	39.8	43.0
3 二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	93.9	92.3	93.3
3 三	文章の展開の意図を説明したものとして適切なものを選択する	69.4	65.0	69.3
3 四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	45.5	45.0	48.8
4 一	文章全体を三つに分けて整理したものとして適切なものを選択する	73.4	71.6	74.7
4 二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	37.6	35.2	39.2
4 三	文章中に書かれている、会話の表情を表す擬音語・擬態語の特徴をまとめたものとして適切なものを選択する	72.0	68.7	73.3
4 四	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く	42.5	38.9	44.8

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

○四分位の正答数内訳では、A 層及び B 層の割合が全国よりも高い。D 層の割合が全国よりも低い。

○全体の平均正答率は全国より 2.1 ポイント高い。

○学習指導要領の内容の観点別平均正答率は、全ての項目で全国を上回っている。

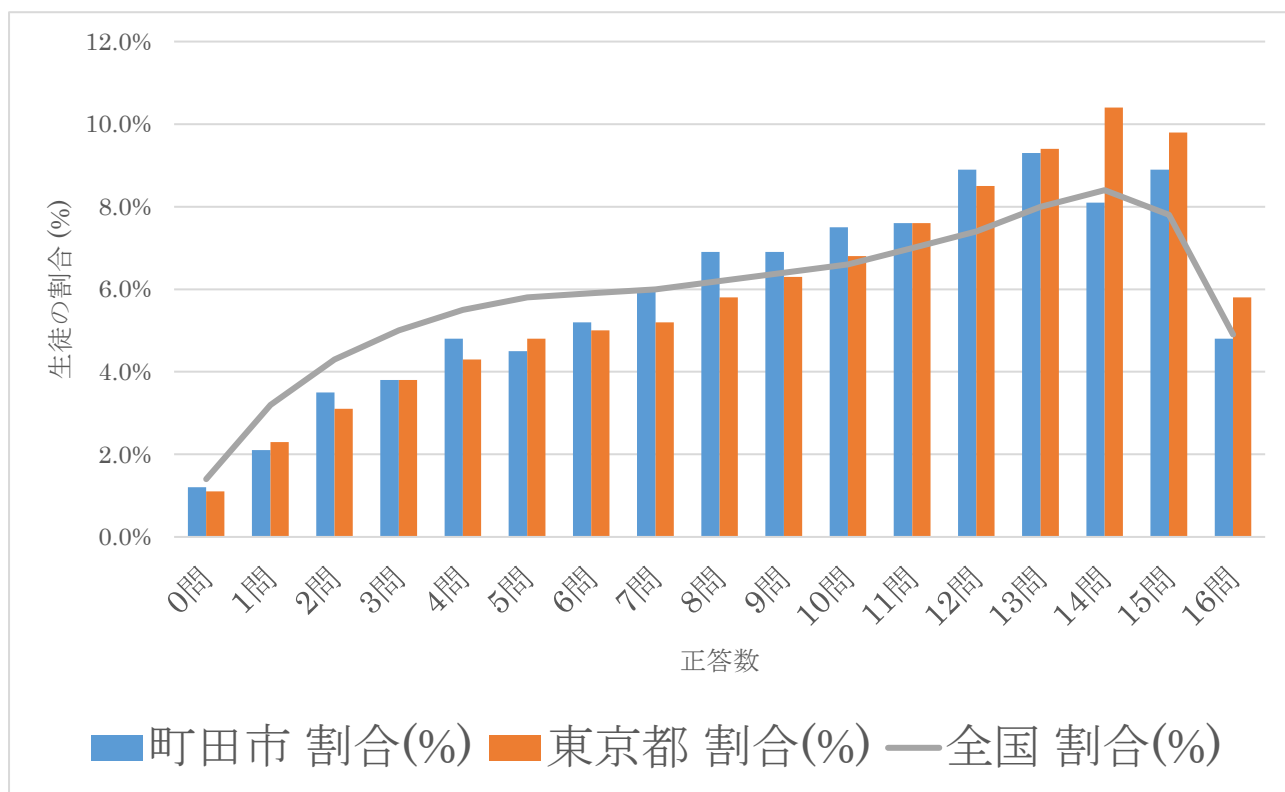
○問題形式別では「記述式」の正答率が他の形式と比較すると低い。

（町田市：47.8%、全国：45.5%、東京都：50.0%）

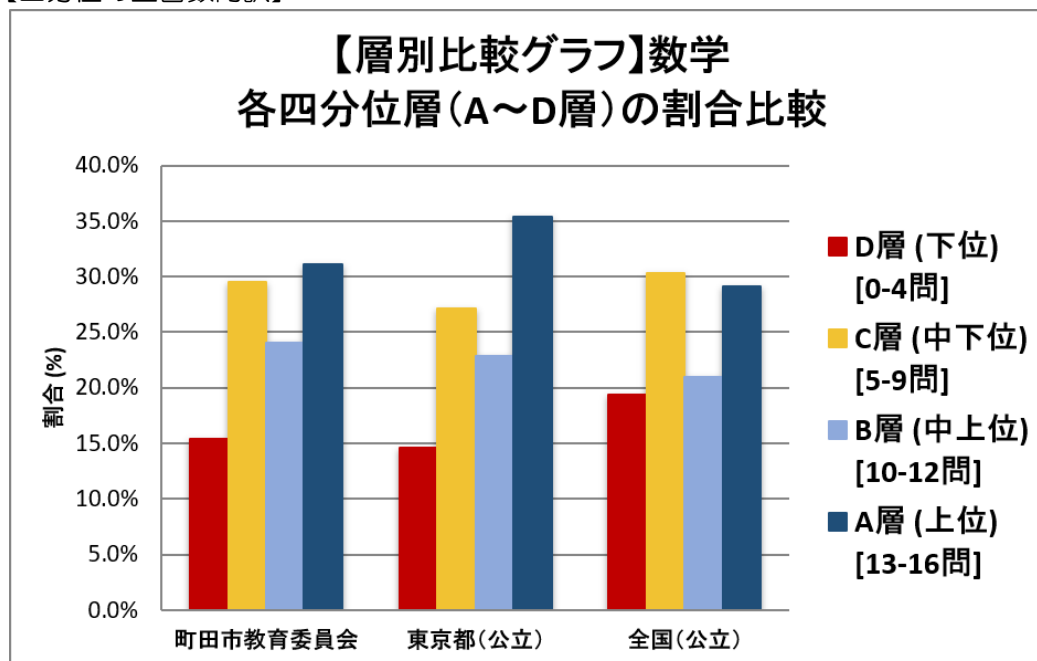
- 文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるようにするためには、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。
- 一人 1 台端末を活用して文章を作成する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択することができるよう、指導することが重要である。
- 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるようにするためには、書き終えた文章について、読み手からの感想や助言を基に、自分の文章を振り返り、次の書く活動にどのように生かすかを考えることが重要。「共有」する際の視点については、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」の学習過程を踏まえ、当該学年で重点としている内容を中心に上げることが大切である。
- 語句の文脈上の意味を捉えることの指導に当たっては、まず、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉えることが大切である。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするために、具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結びつけるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが大切である。

②数学

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数、縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点・問題形式	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	60.0	57.0	62.0
知識・技能	12	65.8	63.0	67.4
思考・判断・表現	4	43.2	39.1	45.8
選択式	3	62.2	59.3	63.1
短答式	9	67.1	64.2	68.8
記述式	4	43.2	39.1	45.8

【問題ごとの平均正答率】

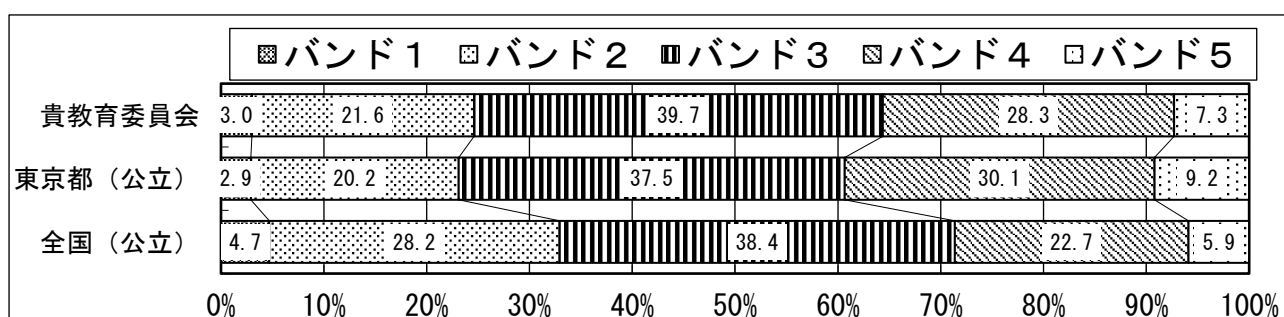
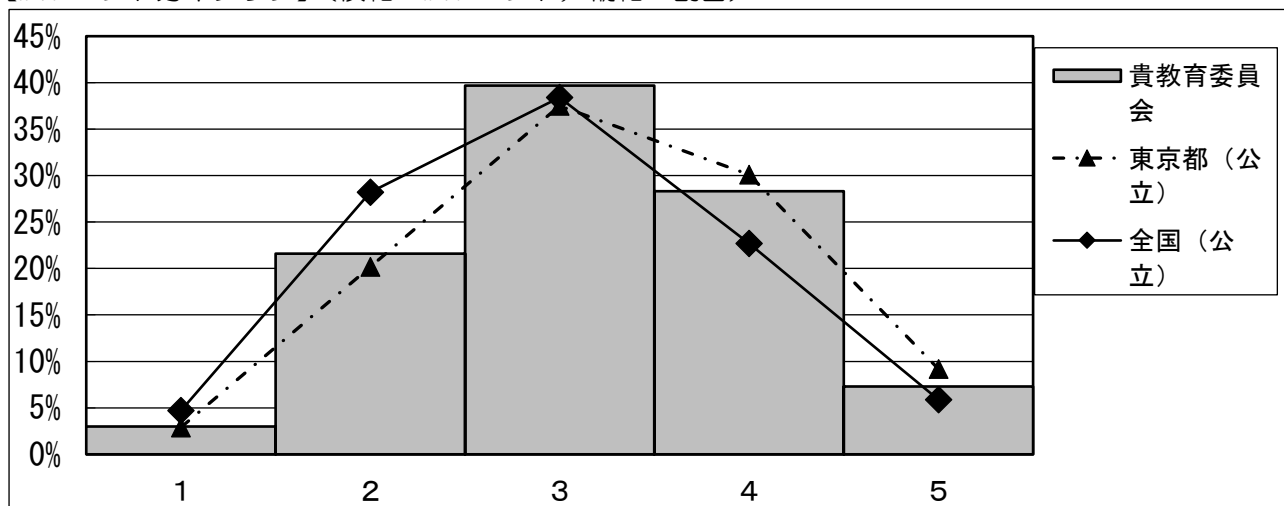
問題 番号	出題の趣旨	平均正答率（％）		
		町田市	全国	東京都
1	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	87.8	85.7	89.2
2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	73.9	70.5	73.1
3	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる	55.5	49.1	56.9
4	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる	54.6	55.3	58.7
5	起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる	66.4	60.2	69.0
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	74.6	73.2	75.5
6 (2)	事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる	67.6	65.0	67.2
6 (3)	統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	46.9	44.6	50.2
7 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	78.0	75.2	78.6
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	36.4	33.9	40.3
8 (1)	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	69.0	62.5	71.0
8 (2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	55.6	46.1	57.2
8 (3)	具体的な事象を基に、証明する事柄の仮定を見いだすことができるかどうかをみる	40.6	37.1	42.6
9 (1)	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	43.6	46.0	47.0
9 (2)	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	78.3	75.8	79.4
9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	33.9	31.9	35.5

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、全国よりもA層及びB層の割合が高くD層の割合が低い。
- 全体の平均正答率は全国より3ポイント高い
- 領域別では「数と式」が最も高い（町田市：70.2%、全国：67.8%）
- 評価の観点では「思考・判断・表現」の正答率が全国より高く、東京都より低くなっている。（町田市：43.2%、全国：39.1%、東京都：45.8%）
- 問題形式別では「記述式」の正答率が最も低い。
（選択式：62.2%、短答式：67.1%、記述式：43.2%）
- 関数を用いて事象を捉え考察するためには、日常の事象から反比例する関係を見いだすことができるようにすることが大切である。
- 事柄が成り立つことを証明する際には、仮定と結論を見だし、数学的に表現した上で証明できるようにすることが大切である。
- データから特徴や傾向を読み取って判断する際には、目的や方法、結論などを振り返って吟味し、批判的に考察できるようにすることが大切である。

③英語

【IRT バンド分布グラフ】（横軸：IRT バンド，縦軸：割合）



町田市は全国と比較して、平均 IRT スコアが高く、上位層の割合が高く、下位層の割合が少なくなっている。

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）
【問題ごとの平均正答率】

	出題の趣旨	問題の 難易度	平均正答率（％）		
			町田市	全国	東京都
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	4	63.6	60.2	66.9
2	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	3	79.6	78.5	80.7
3	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	3	80.9	76.0	81.9
4	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	4	45.3	43.8	49.6
5	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	4	62.9	55.6	63.9
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	3	68.9	67.3	72.2
7	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	3	76.5	72.4	77.6
8	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	3	71.3	63.8	69.4
9	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを を選択する	5	51.1	49.0	53.2
10 (1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいこ とを選択する	4	52.4	47.5	56.0
10 (2)	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由 を書く	5	32.0	27.8	35.6
11①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を 書く	3	68.8	58.9	68.6
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を 書く	3	59.5	52.7	62.1
12	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと 感想を書く	4	55.6	47.5	56.7
13	留学生との交流会で一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を書 く	4	53.1	44.0	54.0
14	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	4	34.8	27.8	37.9

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 平均 IRT スコアが 522（全国平均 499）であり、全ての設問において全国平均を上回っている。
- 学習指導要領の領域別「書くこと」の正答率が、（条件作文：10(2)、自分の考えを記述する問題：14）30%台であり低くなっている。
- 無解答率は、全ての設問において全国よりも低くなっている。
- 特定の情報のみを聞くのみではなく、場面、状況、話し手の意図など、前後の情報をあわせて理解させる指導を大切にする。
- 記述式問題（自分の考えとその理由を書く問題）の正答率が低くなっているため、いきなり英文を書かせるのではなく、まずはキーワードやメモを使って自分の考えを整理する時間を設ける等の工夫をする。また、日常的な話題について、既習事項を組み合わせることでやり取りしたり、短い文章を書いたりする「アウトプット型」の活動を日常化する。
- 実際の場面で英語を活用する力を育むために、複数の技能を統合した言語活動を行い、目的や相手に応じた明確な場面設定をすることが重要である。

質問紙調査結果

■ 1. 調査結果から見る町田市の現状分析

指標 カテゴリー	質問・評価指標	町田市(小)	全国(小)	東京都(小)	町田市(中)	全国(中)	東京都(中)
生活習慣	朝食摂取率（毎日食べる）	85.7%	83.1%	83.7%	77.4%	78.4%	78.0%
生活習慣	規則正しい就寝（同じ時刻に寝る）	84.6%	82.8%	81.1%	77.2%	80.5%	79.1%
メディア	平日 SNS/動画（2 時間以上利用）	55.5%	57.6%	50.4%	74.6%	74.9%	72.9%
学校・相談	困りごとを先生に相談できる	78.6%	70.6%	71.3%	73.0%	71.9%	72.2%
学校・相談	自分にはよいところがある	86.3%	85.6%	86.0%	82.9%	84.0%	84.7%
学校・相談	学校に行くのは楽しい	88.1%	85.7%	85.5%	86.6%	85.4%	85.7%
学習・読書	平日の家庭学習（小：1 時間以上/中：2 時間以上）	40.3%	49.9%	47.7%	40.7%	30.1%	39.0%
学習・読書	読書を全くしない（不読率）	26.2%	26.3%	23.3%	36.4%	40.7%	36.2%
学習・読書	学校図書館にほぼ/全く行かない	54.0%	51.0%	54.2%	75.7%	69.8%	68.3%
ICT スキル	ICT でプレゼンを作成できる	78.9%	74.6%	78.5%	84.4%	80.0%	84.3%
教科意識	国語の勉強が好き	54.3%	57.4%	57.9%	52.9%	57.2%	58.1%
教科意識	算数・数学の勉強が好き	59.2%	57.6%	61.7%	55.0%	56.1%	58.9%
教科意識	英語の勉強が好き	68.2%	66.7%	65.1%	52.5%	51.2%	52.8%
教員体制	教員の指導困難時に組織的解決(学校)	97.4%	93.7%	91.9%	100.0%	98.9%	97.5%
「授業改革」に関連した項目							
教員意識	習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	84.6%	88.1%	91.3%	90.0%	86.1%	85.1%
児童意識	分からないことやわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができる	82.0%	79.4%	80.7%	77.1%	78.2%	79.2%

強み・成果 ① 心理的安全性の高い学校風土と安心できる相談体制

「困りごとを先生に相談できる」割合が小学校 78.6%（全国より 8.0 ポイント高い）、中学校 73.0%（全国より 1.1 ポイント高い）となっている。学校質問でも SC/SSW 相談体制整備が 100%である。

強み・成果 ② 教職員間の強固な同僚性と組織的対応力

指導や学級で課題が生じた際に「組織的に話し合い解決に当たる」学校が小中 97～100%（全国より 4～7 ポイント高い）。管理職への随時相談体制も含め、学校の組織力が高い。

強み・成果 ③ 中学生の家庭学習時間

中学生の平日家庭学習 2 時間以上が 40.7%と全国と比べて 10.6 ポイント高い。

課題・改善 ① スクリーンタイム（SNS・動画）の長時間化と学力への影響

平日動画や SNS 利用が 2 時間以上（小学校 55.5%、中学校 74.6%）になると正答率が低下する傾向が見られる。

課題・改善 ② 学校図書館の利用率低迷と読書離れ

中学校で学校図書館を「全く利用しない／ほぼ利用しない」生徒が 75.7%（全国 69.8%）に達し、読書を全くしない不読率が 36.4%となっている。

課題・改善 ③ 「学び続ける力」に関連した項目について教員意識と児童意識の差

教員意識の「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」の肯定的回答と比較して、児童意識の「分からないことやくわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができる」の肯定回答が低くなっている。

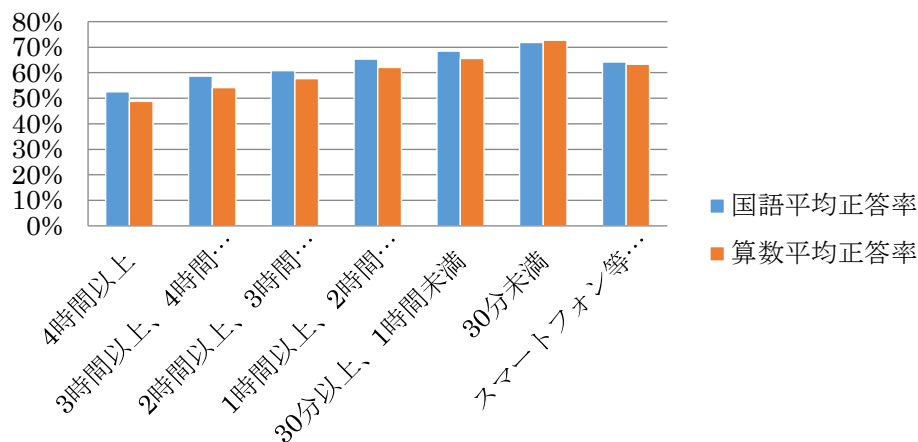
児童生徒の実態に応じた授業改革の推進が必要。

■ 2. 教科クロス集計から見る「生活・学習習慣と学力（正答率）の相関関係」

① 小学校：平日の動画・SNS 利用時間別 平均正答率

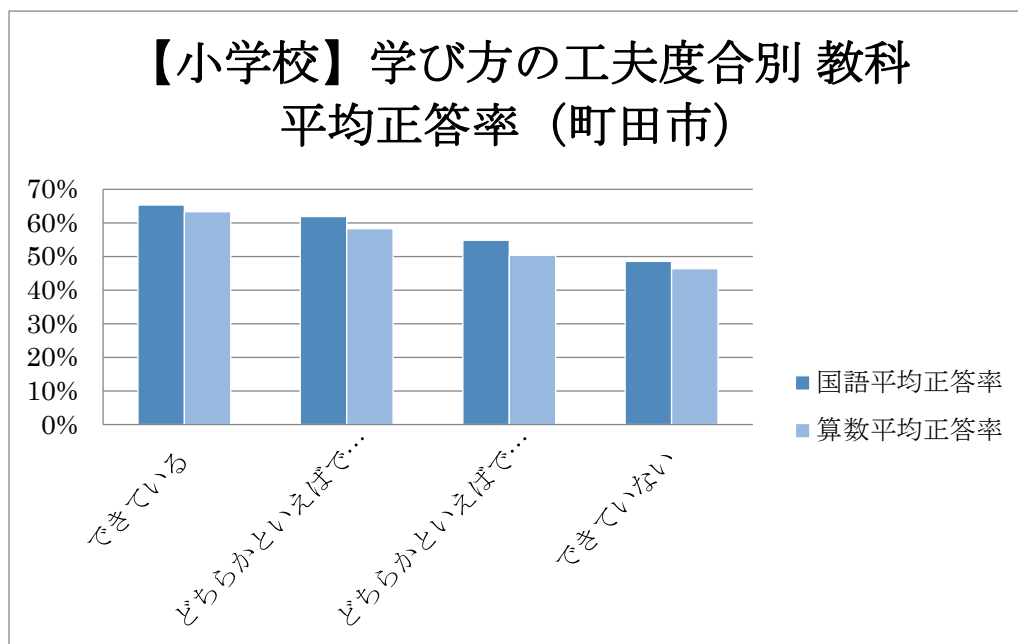
平日SNS・動画利用時間	児童割合	国語平均正答率	算数平均正答率
4時間以上	19.4%	52.5%	48.7%
3時間以上、4時間未満	14.8%	58.7%	54.1%
2時間以上、3時間未満	20.8%	60.8%	57.7%
1時間以上、2時間未満	23.6%	65.3%	62.1%
30分以上、1時間未満	11.2%	68.5%	65.5%
30分未満	5.1%	71.8%	72.7%
スマートフォン等を持っていない	4.6%	64.2%	63.3%

【小学校】 平日の動画/SNS利用時間別 教科平均正答率（町田市）



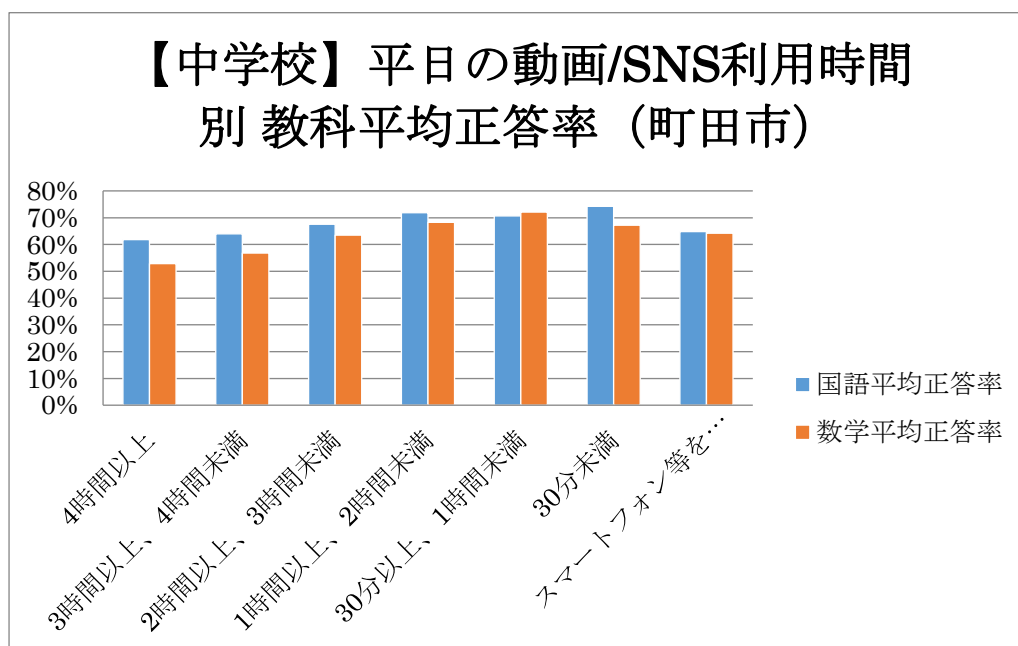
② 小学校：学び方の工夫別 平均正答率

自分で学び方を工夫しているか	児童割合	国語平均正答率	算数平均正答率
できている	29.7%	65.3%	63.3%
どちらかといえばできている	52.3%	61.9%	58.3%
どちらかといえばできていない	15.5%	54.8%	50.4%
できていない	2.0%	48.6%	46.4%



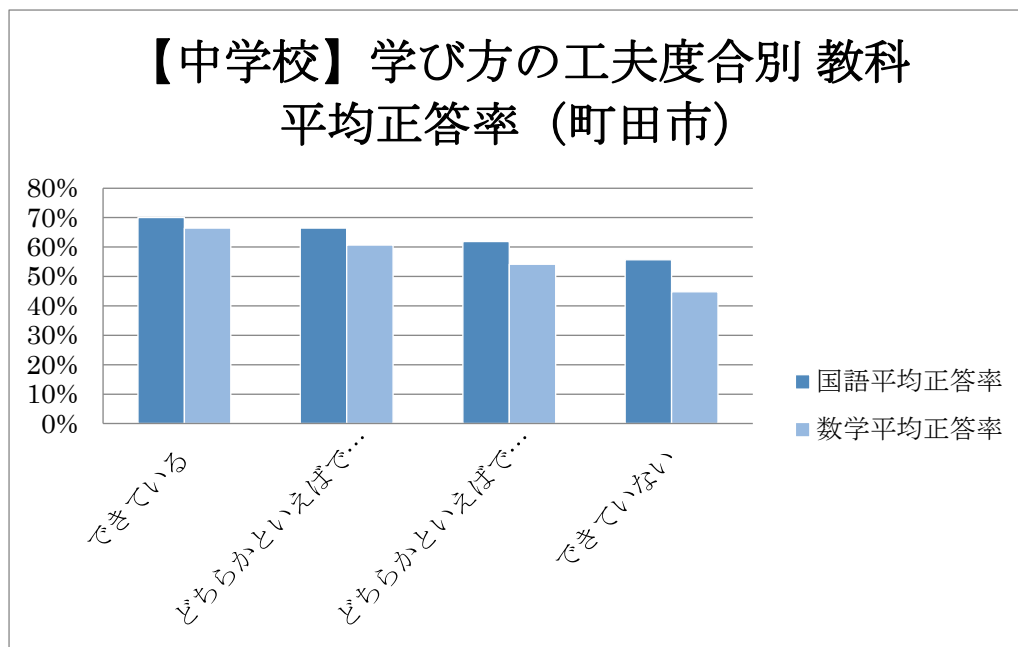
③ 中学校：平日の動画・SNS 利用時間別 平均正答率

平日SNS・動画利用時間	生徒割合	国語平均正答率	数学平均正答率	英語3技能IRTスコア
4時間以上	27.2%	61.8%	52.9%	486
3時間以上、4時間未満	21.7%	64.0%	56.8%	508
2時間以上、3時間未満	25.6%	67.5%	63.5%	534
1時間以上、2時間未満	17.3%	71.8%	68.3%	562
30分以上、1時間未満	5.2%	70.7%	72.1%	576
30分未満	1.9%	74.2%	67.2%	561
スマートフォン等をもっていない	0.8%	64.8%	64.2%	509



④ 中学校：学び方の工夫別 平均正答率

自分で学び方を工夫しているか	生徒割合	国語平均正答率	数学平均正答率	英語3技能IRTスコア
できている	27.5%	70.0%	66.5%	549
どちらかといえばできている	49.6%	66.5%	60.7%	523
どちらかといえばできていない	18.8%	61.9%	54.1%	489
できていない	3.7%	55.7%	44.8%	452



調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- (1) 調査結果を踏まえ、昨年度に引き続き、授業改革推進委員会において、子供たちの「学び続ける力」を高める授業を目指し、「選択」の場面を取り入れた授業実践を行い公開するとともに、教師の支援の在り方についてデジタル版実践事例集や、動画を作成して、各学校で授業改善の参考資料として活用するように周知する。
- (2) 2026年度に全校実施した授業改革研修に基づき、各学校において「授業改革推進プラン」を作成し、学び続ける力を育む授業の推進を図る。その際、組織的な授業改善や PDCA サイクル化を図るよう教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。
- (3) 教員及び児童生徒を対象に実施した市独自の ICT 活用状況調査の結果を基に ICT 活用について学校に事例等を周知する。